

令和7年度 第2回川崎市宮前市民館専門部会会議録（要旨）

日 時 令和7年9月24日（水） 10：00～12：00

会 場 宮前市民館 第4会議室

出席者	部会長	川西 和子	調査モニターラー・分析・各種司会
	副部会長	山本 太三雄	菅生分館利用者懇談会
	委 員	後藤 香織	川崎市立宮前平小学校 校長
		渡辺 美代子	宮前区文化協会 会計
		高久 實	宮前区全町内・自治会連合会 理事
		檜崎 光雄	市民委員
欠席者		白武 初江	宮前第6地区民生委員児童委員協議会 会長
		宮下 大志	宮前区PTA協議会 役員
事務局	宮前市民館	石川館長・下間係長・徳原係長・篠原主任・加古主任・田中職員	
	菅生分館	佐藤分館長	

会議の成立 委員8名中6名出席のため、成立

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

委嘱状交付

1 宮前市民館長あいさつ

2 議事

（1）報告事項

　宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について

（2）協議事項

　今期の研究課題について

（3）その他

　ア 第3回・第4回宮前市民館専門部会の開催日程について

　イ その他

配布資料

資料1 令和7年度 宮前市民館 社会教育振興事業実施状況

資料2 令和7年度 宮前市民館菅生分館 社会教育振興事業実施状況

(参考)

- 宮前市民館だより 第262号（8月1日発行）、第263号（10月1日発行予定）
- 菅生分館だより 第193号（9月1日発行）
- 宮前市民館事業チラシ
 - 「新しい体験と発見でデジタル社会の今を楽しく！元気に！」 高齢者セミナー事業
 - 「スマホ相談会 9月・10月」 現代的課題学習事業
 - 「みやまえ子育てフェスタ 2025」 課題別連携事業
 - 「宮前を知ろう歩こう楽しもう」 市民自主企画事業
 - 「夏休み子どもあそびランド 2025」 多様な主体が参画する子どもあそびランド事業
- 菅生分館事業チラシ
 - 「児童室であそぼう Day」 子育て支援啓発事業
 - 「0歳からのファミリーコンサート」 市民自主企画事業
 - 「赤ちゃん期の今だからできること」 家庭・地域教育学級
 - 「おしゃべりスマホひろば」 現代的課題学習事業
 - 「おしゃべりサロンすがお 10月～12月」 課題別連携事業
- 生涯学習情報誌「ステージアップ」 Vol. 254

1 宮前市民館長あいさつ

2 議事

(1) 報告事項

宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について

令和7年度の宮前市民館の社会教育振興事業の実施状況について、資料2に基づき
徳原係長から説明を行った。

令和7年度の菅生分館の社会教育振興事業の実施状況について、資料3に基づき
佐藤分館長から、説明を行った。

(質疑応答)

檜崎委員

青少年教室事業「Let's ハンドメイド&館内装飾」の参加者が5人だったのは
少し残念だ。高齢者セミナー事業の「新しい体験と発見でデジタル社会の今を
楽しく！元気に！」がすぐに申込が埋まったということだが、内容を見ると人
気があるのはよくわかる。参加者は何でこの事業のことを知ったのか。

徳原係長

講座が始まれば直接確認することができるが、市政だよりや市民館だよりに
掲載されているのでそれではないかと思う。募集開始日の10時前に6人が
直接市民館に来館して並んで待っていた。申込の電話も多く、ある程度予想
はしていたが予想以上に人気があった。

檜崎委員

今はスマホを利用している高齢者が多く、スマホ相談会はあちこちで開催している。スマホの操作ではなくAIのことを講座で取り上げるのはアカデミックでとても素晴らしい企画だと思う。また、寺子屋先生とはどんな人なのか。

徳原係長

小学校、中学校で寺子屋事業というのを教育委員会が地域の人にお願いして行っている。放課後、児童に宿題や工作など色々なことを教えている先生やの運営する人のことだ。

檜崎委員

学校の先生は忙しすぎて大変だという話をよく聞くが、大丈夫なのか。

後藤委員

教えているのは学校の教員ではなく、地域や事業者の人達なので問題はない。

渡辺委員

事業者というのは何の事業か。何を教えているのか。勉強面か書道、華道などなのかな。

徳原係長

寺子屋によって教える内容は様々だが、学習支援や工作など様々なことを教えている。

川西部会長

自分も昔、養成講座を受けて寺子屋の先生をしたことがあるが、その時は掛け算九九を覚えるための算数の補助としての学習支援をしていた。子ども達は楽しんでやっている様子だった。

渡辺委員

それはどこの場所で教えているのか。学校なのか。昔、華道の学習を学校で行っていたが、生徒数が増え、教室が狭くなってしまった。寺子屋の先生になれば年に何回か教えることができるのか。

川西部会長

寺子屋はシステムがしっかりとしており、定期的に参加する許可をもらっている。単発で教えるというのは事情が違うかもしれない。

佐藤分館長

定期的な学習支援を行っている部分と、週末の単発的な活動支援の部分と色々ある。寺子屋の先生になるには養成講座を受ける必要があるので、すぐに誰でもなれる訳ではない。退職した教師の方などが多いようだ。

高久委員

スマホはまだまだ高齢者にはなじみが薄い。国勢調査も今はスマホで行うことができる。80歳前後の人だとスマホは持っているが、使い方がよくわから

ない人が多いので、スマホの操作を習うことは重要である。まだまだ継続してスマホの講座を続けて欲しい。

宮前区にあるいこいの家にはスマホ操作を教えるボランティアが来ていな
い。スマホボランティアの人がいこいの家に教えに行くようなネットワークを
作れたらと思っている。

徳原係長

スマホ相談会の需要は多いし、リピーターとして何度も参加している人もい
る。スマホボランティアの人と行っている月1のミーティングで相談し、高久
委員が言ったように、様々な場所に活動の場を広げていけたらと思っている。

今年は区民祭で相談ブースを持つ予定になつていて聞いている。

高久委員

菅生分館の「着物リメイクでSDGs」はとても人気があると聞いているが、
先生がいないとだめなのか。

佐藤分館長

講師をされている方は市民館で活動されている方である。今までなかったタ
イプの講座であり、親から譲り受けた着物を簡単に今風にリメイクできること
で関心が高かった。また、最後には自分達で作った着物を着てファッションシ
ョーを開催する予定である。

山本副部会長

着物を利用したリメイクをし、ファッションショーをするので男性モデルを
募集している。

佐藤分館長

今後は菅生分館で活動が続けられるようなサークルを立ち上げて続けていこ
うという計画がある。今回、定員の20人を超える応募があったので、講座に
参加できなかつた人はファッションショーを見に来てもらい、次の活動から
参加してもらえたたらと思っている。

高久委員

宮前市民館でもやって欲しい。

徳原係長

ぜひ宮前市民館でもやって欲しい。きっと人気がある講座になるだろう。

檜崎委員

先ほどの発言はスマホ教室をやつてはダメだという意味ではなく、それだけ
ではなくシフトしていくかといけないといふという意味で発言した。

徳原係長

スマホ操作の習熟度は様々な段階の人がいるので、こちらも色々な段階に合
わせた講座を開催していきたい。

渡辺委員

夏休み子どもあそびランドを1日体験したが、とても人が多く、色々なブースがあってとてもぎやかで親子が楽しんでいる様子が見られた。ただ、文化協会の仲間はあまりこのイベントのことを知らない様子で寂しい気持ちがした。館内装飾をしたことで、暗い雰囲気の廊下が明るくなつて素晴らしいと感激した。

徳原係長

夏休みこどもあそびランド自体も盛況だったが、小さい子があそびランド後も廊下の装飾に興味を持ってくれていた。今後も季節によって色々と装飾を変えたりする予定である。今、参加している人だけではなくあそびランドに来てくれたボランティアで装飾に興味がある人にも今後は参加してもらいたい。

川西部会長

館内装飾の講座は専門部会の委員の皆さんに見学をしてもらった。参加人数は5人と少なかったがとても高度なことを行っている。自分もコミュニティーカフェでおしゃべりをしながら折り紙を折った。数を作るのは本当に大変だったと思う。館内装飾に古い市民館だよりを使うなど、発想がとても素晴らしいし、今後も色々とでもいいのでぜひ続けていきたい。

菅生分館の「0歳からのファミリーコンサート」は企画の段階で会場がどこになるかが大事になると話していたが、菅生小学校の体育館でできることになったのは、企画委員が学校と交渉を行なったのか。

佐藤分館長

企画委員と菅生分館職員も協力しながら交渉を行なった。

川西部会長

学校開放は昔から言われているが、なかなかこのように気軽に家族で参加できるイベントはなかったと思う。こういった実績をぜひ校長会でも発表して欲しい。地域と学校の連携は、体育館を貸す、ということだけでも出来るということをアピールして欲しい。

夏休み子どもあそびランドは未就学児や小学校低学年の親子には知られているが、それ以外の年代層には知られていないという指摘が先ほど渡辺委員からあった。広報については前々から検討してきているが、対象者以外の人にも波及的に広げていくということが、非常に難しいことだが大事な視点である。

檜崎委員

先日、区役所で宮前フィルがロビーコンサートをおこなつていて、親子連れが集まつていて、内容もとてもよかつた。今期は専門部会委員の活動は「知る・関わる・好きになる」というテーマで行っているが、音楽やブレイクダンスなどテーマを絞つて知らせることが大事である。

川西部会長

「新しい体験と発見でデジタル社会の今を楽しく！元気に！」は毎回違うことを取り上げているので見ただけでワクワクするようなすごくいい企画だと思う。どうやって職員は企画の構成をしているのか。昭和を懐かしむだけではなく元気に過ごすためには、自分達自身もアップデートをしていくことが必要である。

徳原係長

職員の1人が企画をしている。連続講座なのですべての回を受けてもらうが、多様なテーマの中の一つでも興味を持てば参加をし、新しい発見に結びつくような講座になっている。

川西部会長

交通アクセスに「富士見坂を上り」と記載があり、その下にバスの案内があるのですごく高齢者目線になっている案内でとてもいい。

また、先日他区の社会教育委員会議の人から連絡がきて、過去の専門部会の資料が欲しいと言われた。宮前区では専門部会で発案されたことを職員と一緒にあって行っているので、今後は色々と改革を行っていきたいということだった。他区の情報をお互いに共有できるといいと思う。

檜崎委員

実施状況にどの層を対象とした企画なのかがわかるような工夫があるといい。

徳原係長

今回はタウンニュースにあそびランドを開催報告の記事が掲載される予定だったが、スペースの関係で掲載されず残念だった。色々な媒体で知ってもらうことによって、参加者だけでなく達人などのボランティアの掘り起こしにもつながる。

川西副部会長

今年の夏休み子どもあそびランドのチラシは、イラストがとても大きくぱっと目を引くのでとてもいいと思う。また、「Let's ハンドメイド&館内装飾」のポスターは駅にどのように頼んで掲示してもらったのか。

徳原係長

宮崎台駅、宮前平駅、鷺沼駅に直接行き、駅にいる人に直接頼んで掲示してもらった。

川西部会長

別件で過去にチラシを貼ることについて頼みに行ったが、鷺沼駅が所管であり料金設定もあった。市民館が頼みにいったということがよかったです。

山本副部会長

市民自主企画や職員対象でもチラシを作成する基本的なポイントや技術を教え、スキルがアップするような講座があればいいのではないか。社会教育としての基礎知識を学ぶ機会があるといい。

檜崎委員

今は ChatGPT などの AI でもチラシは作成できる。

山本副部会長

ChatGPT が作成したものに対していい悪いの判断をするスキルをどう高めるのかが大切であると思う。

川西部会長

職員の個人的スキルによってチラシの出来栄えなどが色々と違ってくるので、標準化するチャンスがあることが大事である。

檜崎委員

AI を多用している時代なので、それを判断する目が必要だ。学校でも子ども達は AI を使っているのではないか。

後藤委員

そのとおりだ。AI を使えるスキルはもちろんだが、その上の判断力と思考力がないと世の中に対応できないと思う。インターネットの情報が正しいのか考えたり判断する、そういう力を持つ子どもを育てたいと思っている。

(2) 協議事項

- ・今期の研究課題について

川西委員長

今期は市民館のサポーターを作ろうということから、講座を行い、子ども達にも館内装飾をしてもらった。それ以外に市民館に興味関心が増えるようなアイデアはあるか。

檜崎委員

市民館の外でダンスの練習をしている人や小学生でダンスを習っている人達を対象として、ブレイクダンスコンテストを開催して市民館に親しみを持ってもらうのはどうか。

川西部会長

以前、中高生を集めて「文化魂」という企画を行っていたことがある。子ども達が協議会を作って運営するとてもいい企画であったが、主催者の年齢が上がつていき後が続かなくなってしまった。

山本副部会長

ダンスや音楽などいろいろなジャンルあるがどこかに対象を絞るのか。

檜崎委員

ブレイクダンスに対象を絞った方がいい。宮前区らしい川崎らしいことを開催して市民館を知って欲しい。自分もそうだが、市民館に足を運ぶことによって色々なことをやっているのが分かっていく。

川西部会長

ダンスは学校のカリキュラムに採用されているのか。

後藤委員

中学校・高校ではダンスは「表現活動」という名前で授業に取り入れている。子ども達は体を動かすことが好きであるが、ダンスを習っている子でなければ参加できないとなると、参加者は限られてしまう。

川西部会長

市民館の外で練習をしている子は、自分達のスキルアップが目的なので、他のネットワークを作る運営までは手が回らないので、そこが難しいところである。大人であってもそうだ。

檜崎委員

最初に企画するのはとても手間と労力があるが、誰かがやらないと進まない。

高久委員

まず誰がやるのか。中心となる何人かがいないと立ち上がらないのではない

か。

徳原係長

新しく立ち上げるのではなく、何かの事業とダンスを絡めて企画することは可能かもしれない。例えば、現代的課題事業などで将来的にコンテストを開催すること目標に作っていく講座を立ち上げるということはできるかもしれないが、人が集まるのか、人をどう集めるのかといったことなども課題になる。

川西部会長

ブレイクダンスだけに絞ってしまうとすごく対象範囲が狭まってしまう。

高久委員

ブレイクダンスは武蔵溝ノ口の駅前の人達から発展しているメンバーがいる。その人達とネットワークがないと難しいので、今後の課題である。

川西部会長

市民館サポーター養成講座に参加してくれた人とは今も繋がりがあると思うので、その人達とできることはないか考えるが現実的ではないか。

徳原係長

その人達と青少年教室の子ども達と一緒に何かできないかを考えている。

川西部会長

富山県の「風の盆」を見学したが、小さい頃から地域や学校で踊りを教えて

いる。やはり子どもの頃からの教育が大事だと感じた。

高久委員

自治会の中では太鼓や獅子舞など子ども達との繋がりが盛んである。

川西部会長

そういった今まであるものを広げて地域の人が自由に参加できるように、市民館がもっと広がっていくといい。

佐藤分館長

11月22日（土）に「第11回すがお手つなぎまつり」が稗原小学校を会場として開催される。出店があったり自治会や地域の方と繋がって菅生地域を盛り上げていく行事となっている。

檜崎委員

探せば地区ごとの色々な伝統の文化がある。それを集めて市民館で何かできればいいと思う。

川西部会長

「菅生でお江戸を感じて」の講座が人気なように、テーマによってはすごく興味を持つ人がいると思う。どういう風にして宮前区の新しい地域に根差した核になるものを育てていけるかをテーマに考えていくのもいいのではないだろうか。

（3）その他

ア 第3回・第4回宮前市民館専門部会の開催日程について

第3回専門部会の開催日は、12月9日（火）午後2時からとする。

第4回専門部会の開催日は、2月15日（日）午後1時から5時とする。

イ その他

専門部会ワーキングは、11月6日（木）午前10時からとする。